

# 2015 グローバルヘルスサマープログラム 報告書

---



日本医療政策機構 第6回グローバルヘルスサマープログラム

グローバルヘルスサマープログラム 2015  
医療の持続可能性を探る：医療分野のICT ータイの事例から学ぶ

## プログラムのポイント

### 1. グローバルな視点

本プログラムでは、はじめに東京にて日本の医療政策分野のリーダーから日本の医療ICTの現状について学ぶ機会を設けました。その後、参加者がタイを訪問し、現地でどのように医療ICTが始まり、現在はどのように活用されているのか、また、タイの皆保険制度(UCS)の支払行政機関であるタイ国国民医療保障局(NHSO)が医療ICTをどのように管理しているのかについて学びました。タイ国内のステークホルダーや現地の医療政策のリーダーとの活発な議論を通し、タイの医療制度への理解を深め、日本の医療制度をより良くするヒントを得ることができました。

### 2. 政策提言

本プログラムの目的は、日本の能力を広げ、医療分野でICTを導入するための受け皿を強化することにあります。また、日本とタイでの講義を通じ、1)日本における医療ICTの現状、2)医療ICTを活用する際に日本が直面する課題、3)当該分野のステークホルダー、4)タイではどのようにICTシステムが根付いたのか、5)タイではどのように医療データが維持され活用されているか、6)日本がタイの経験から学べる教訓、7)医療ICTの活用にあたってのリスクを理解することも、本プログラムの目標として掲げました。

また、参加者は上記の7つの要素をふまえ、日本がどのように医療分野のICTを導入できるかについての政策提言を行いました。今後、これらの提言は日本の医療政策のステークホルダーに向けて提出される予定です。

### 3. チームワーク

参加者は3つのチームに分けられ、チーム内で協力して作業を行い、学び、話し合いを行いながら、フィールドワークおよび政策提言の作成にあたりました。短期集中型のプログラムであったため、コミュニケーション及びチームワークのスキルは欠かせないものでした。

# 2015 グローバルヘルスサマープログラム スケジュール

(2015年8月25日現在) ※スケジュール及び詳細については変更の可能性があります。

日時	トピック	スピーカー	場所	
<b>9月6日(日)</b>				
9:20	開場		GRIPS4階、会議室4B	
9:30-10:00	イントロダクション	アンスミス (HGPIマネージャー)		
10:00-11:00	アイスブレイキングセッション	パイレーツオブ東京湾		
11:00-11:10	休憩			
11:10-12:30	講義およびディスカッション 1: タイの医療制度	アンスミス		
12:30-13:30	昼食*			
13:40-15:40	政策提言の作成: アウトラインの構築	アンスミス		
15:40-16:00	休憩			
16:00-17:00	フィールドワークに際して: タイの文化と慣習	HGPI スタッフ		
17:30-20:00	ウェルカムディナー*		クルン・サイアム六本木店	
<b>9月7日(月)</b>				
9:30	開場		JICA地球ひろば セミナールーム201AB	
10:00-11:30	日本の医療政策	小野崎耕平(HGPI理事・事務局長)		
12:00-13:00	昼食*			
13:30-15:00	日本における医療ICT	宮田俊男(HGPIエグゼクティブ・ディレクター)		
15:00-15:15	休憩			
15:15-17:00	グループワーク	アンスミス		
<b>9月8日(火)</b>				
9:30	開場		JICA地球ひろば セミナールーム201AB	
10:00-12:30	デザインシンキングワークショップ 1: 問題分析および問題解決へのアプローチ	山崎繭加 (ハーバード・ビジネス・スクール・ジャパン/日本リサーチセンター アシスタントディレクター)		
12:30-13:30	昼食*			
13:30-16:30	デザインシンキングワークショップ 2: プレゼンテーションとインタビューの技術	山崎繭加		
16:30-17:00	フィールドワークの確認事項	HGPI スタッフ		
<b>9月9日(水) - 9月13日(日)</b>				
フィールドワーク (次ページ参照)		バンコク及びカンチャナブリー州(タイ)		
<b>9月14日(月)</b>				
9:00-21:00	プレゼンテーション準備およびフィードバック	原聖吾(HGPIフェロー/マッキンゼー・ジャパン コンサルタント)	JICA地球ひろば セミナールーム202AB	
<b>9月15日(火)</b>				
9:00	開場		GRIPS4階、会議室4B	
13:30-13:50	プレゼンテーション 評価者の紹介	モデレーター: アンスミス 評価者: 小野崎耕平 宮田俊男 石黒光(HGPI理事) サラ・阿部(東京大学 プロジェクトアシスタント・プロフェッサー) 藤田卓仙(名古屋大学経済学部 寄付講座: CBMヘルスケアイノベーション(アイカ工業) 准教授)		
14:00-15:30	各チームによるプレゼンテーション	グループ A グループ B グループ C		
15:30-15:45	休憩			
15:50-16:20	評価者からのフィードバック			
16:20-17:00	閉会	黒川清 (HGPI代表理事)		
18:30-21:00	サマープログラム アルミナイディナー *(第6回GHSP参加者および過去のGHSP参加者)			イート パーク タイ

\*食費は参加費には含まれません。

## 2015 フィールドワーク スケジュール

(2015年8月25日現在) ※スケジュール及び詳細については変更の可能性があります。

日時	内容		詳細	場所
<b>9月9日(水)</b>				東京
10:35	羽田空港出発		タイ航空TG683便	
15:05	バンコク スワンナプーム国際空港到着			
16:30	ホテルチェックイン		ミラクルグランドホテル	
18:00	夕食・ショッピング		現地レストランおよびマーケット	バンコク(タイ)
<b>9月10日(木)</b>				
7:00-8:00	朝食		ミラクルグランドホテル	
8:15	NHSOに向けてホテルを出発			
9:00-12:00	タイ国国民医療保障局 (NHSO)訪問	9:00-9:10	歓迎の挨拶 NHSO 事務次長 Netnapis Suchonwanich 氏	
		9:10-9:40	日本における医療ICTについて GHSP 参加者	
		9:40-11:00	国民皆保険の達成とICTの活用について Netnapis Suchonwanich 氏	
		11:00-11:30	データセンターおよびコールセンターの訪問 Wilailuk Wisasa 氏 Atcharaporn Thammachot 氏	
		11:30-12:00	総括・ディスカッション・質疑応答 Netnapis Suchonwanich 氏	
12:00-13:00	昼食		NHSO事務局	
13:00-14:00	ホテルへ戻る			
14:00-18:00	グループディスカッション・夕食		ホテルおよびユニオンモール	
<b>9月11日(金)</b>				カンチャナブリー州(タイ)
6:00-6:45	朝食		ミラクルグランドホテル	
7:00	ホテルからカンチャナブリー州に向け車で出発			
10:00	マカラク地域病院へ訪問		施設の見学および医療ICTの活用法についての講義	
12:00	昼食		マカラク地域病院	
13:00-16:00	病院職員および経営スタッフとの会談		マカラク地域病院	
18:00	ホームステイ施設へのチェックイン		Banklangtung Organic Homestay	
18:00	グループ別に夕食・ディスカッション		Banklangtung Organic Homestay	
<b>9月12日(土)</b>				サムットソクラーム州(タイ)
7:00-8:00	朝食		Banklangtung Organic Homestay	
8:00-12:00	グループワーク		Banklangtung Organic Homestay	
12:00-13:00	昼食		Banklangtung Organic Homestay	
15:00	ホームステイ施設(Bannsuwan Marklong Homestay)に到着			
16:00	サムットソクラーム州でのボートツアー、水上マーケット、ホテル観賞、夕食			
20:30	ホームステイ施設へ戻る		Bannsuwan Marklong Homestay	
<b>9月13日(日)</b>				バンコク(タイ)
7:00-8:00	朝食		Bannsuwan Marklong Homestay	
8:00	バンコクに向け車で出発			
13:00	バンコク スワンナプーム国際空港出発		タイ航空TG660便	
21:10	羽田空港到着			東京

## 参加者および所属先

---

(敬称略)

麻生 豪	慶應大学法学部
原田 洸	岡山大学医学部
堀口 範奈	神戸大学 大学院保健学研究科
増城 賢太郎	スリーロック株式会社
三好 都子	ゆうホームクリニック石巻
名竹 恵美	デロイト トーマツ コンサルティング
バラト・シン・ネギ	神戸大学 大学院保健学研究科
野口 昌克	アボット ラボラトリーズ
坂西 洋	九州大学大学院医学系学府 医療経営・管理学専攻
清水 理沙	北海道大学 大学院薬学研究院
高橋 詩野美	京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻
山中 智絵	長崎大学薬学部

## 概要

### 1日目:2015年9月6日

第6回グローバルヘルスマープログラム(GHSP)は、パイレーツオブ東京湾によるアイスブレイキングセッションから始まりました。様々なアクティビティを通して参加者がお互いの名前を覚えることで、プログラムを和やかな雰囲気で行うことができました。次に、GHSPのコーディネーターであるアン・スミス(HGPIマネージャー)によるタイの医療制度についての講義が行われました。この講義では、タイの医療制度の背景、現行の支払い方式と医療制度上の課題などを学びました。

その後、スミスにより政策提言の作成方法についての講義が行われ、政策提言の目的や基本的な方針、政策提言の作成にあたり考慮すべき重要な点について学びました。講義の後は、リーディングガイドに記載された問題についてグループワークを行いました。プログラムを始めるにあたり参加者全員の理解度を揃えるため、ディスカッションの後に解答が配られました。1日目の最後のセッションでは、谷所由紀子(HGPIシニアアソシエイト)よりタイでのフィールドワークに向けた講義が行われ、タイの文化、マナー、タイの言語について学びました。

---

### 2日目:2015年9月7日

小野崎耕平(HGPI理事・事務局長)による日本医療制度と医療制度が抱える課題の概要について講義が行われました。日本の医療制度や日本の医療政策に関わる小野崎の豊富な経験について、参加者が活発に質問し、議論を深めました。2日目の後半は、宮田俊男(HGPIエグゼクティブディレクター)より、日本における医療ICTについての講義が行われました。この講義では、医療ICTに関わる現在の政策や日本国内の様々な取り組み、さらに医療ICTの分野で日本が直面している課題について学びました。最後に、参加者はグループに分かれ、日本の医療制度、医療制度が抱える課題、日本の医療ICTの現状についてタイ政府に向けて紹介するため、プレゼンテーションの作成を行いました。

---

### 3日目:2015年9月8日

ハーバードビジネススクール・日本リサーチセンターのアシスタントディレクターである山崎蘭加氏によるデザインシンキングワークショップが行われました。まず、山崎氏より、従来の問題解決アプローチについての説明、および問題解決に独創性を取り入れたデザインシンキングのアプローチについての講義が行われました。その後、参加者がデザインシンキングの各要素を実行し、さらにグループごとに実際に問題解決に取り組む時間を設けました。最後に各グループがプレゼンテーションを行い、山崎氏よりフィードバックを頂きました。

---

### 4日目:2015年9月9日

フィールドワークに向けて東京からバンコクへ移動しました。バンコク到着後は、現地レストランで夕食をとり、地域のマーケットへショッピングに行きました。

---

### 5日目:2015年9月10日

参加者一同はタイ国国民医療保障局(NHSO)を訪問しました。NHSOは、タイ国民の75%をカバーする皆保険制度の支払行政機関であり、そこで始めに事務次官のNetnapi Suchonwanich氏から歓迎のご挨拶をいただきました。その後、参加者からSuchonwanich氏に向けて、日本の医療制度・医療制度が抱える課題・日本医療ICTの現状についてのプレゼンテーションが行われました。3つのプレゼンテーションの後は、Suchonwanich氏からNHSOによる医療ICTの取り組みと医療ICTの歴史について説明を頂き、さらに参加者とのディスカッションや質疑応答が行われました。その後、NHSOのデータセンターとコールセンターを見学しました。NHSOでの昼食の後はホテルに戻り、午後は各グループで政策提言作成にむけたミーティングを行いました。グループワークの後は、夕食とショッピングのためバンコク市街部へ出かけました。

## 概要

6日目:2015年9月11日

バンコクを離れ、カンチャナブリー州のタマカ郡へと移動しました。はじめに、タイ公衆衛生省(MOPH)の施設であり、大多数の患者が皆保険制度でカバーされているというマカラク地域病院を訪問しました。病院の副理事であるAnkul医師から、院内でのICTの活用方法や、病院からMOPHへの情報の送り方についての説明を頂きました。

次に、病院の登記を行うエリア、薬局、インテーク部門を訪問し、日常業務の中で病院職員がどのようにICTを活用しているかを見学しました。興味深いことに、マカラク地域病院では、患者の医療データの管理のためにICTと紙媒体の両方を使用していました。その後、地域のレストランで昼食をとりつつ、副理事のAnkul医師や病院の職員とのディスカッションを行いました。

午後はルーラルヘルスセンターを訪問しました。ルーラルヘルスセンターの主な役割は周辺地域の住民約4000人を対象とした予防とヘルスプロモーション活動を行うことであり、ここで参加者はITディレクターの方との会談および質疑応答を通して医療ICTの現状について学びました。ITディレクターの方によると、電子データは個人単位で収集されMOPHの州統括オフィスに送られるものの、それらの電子医療データはルーラルヘルスセンターと地域病院の間では共有されていないとのことでした。

ルーラルヘルスセンターでの会談の後はマカラク地域病院に戻り、外科病棟、産科病棟、入院病棟を見学しました。それぞれの病棟を案内してもらいながら、より効率的な治療・院内コミュニケーション・データ収集を行うために、医療ICTがどのように活用されているかを学びました。

---

7日目:2015年9月12日

午前中は、政策提言作成のためのグループごとのミーティングが行われました。その後、ホームステイ施設のスタッフからタイ料理の調理法を教わりながら、一同で昼食を作りました。昼食後はサムットソクラム州へ移動し、現地の寺院や水上マーケットを見学した後、ボートでのホテル観賞を楽しみました。

---

8日目:2015年9月13日

参加者一同はバンコクから東京へと戻りました。

---

9日目:2015年9月14日

全日、政策提言作成とプレゼンテーションのための準備が行われました。午後は原聖吾(日本医療政策機構フェロー)が各グループの提言およびプレゼンテーションに対し、フィードバックを行いました。

---

10日目:2015年9月15日

各グループはそれぞれの政策メモを発表し、質疑応答を行い、その後審査員達からのフィードバックを受け取りました。審査員達は参加者が作り上げたアイデアを高く評価しつつも、現在の政策の流れを取り入れる必要があることを強調しました。各グループは以下の4点に於いて評価されました。

- 1.現在の政策状況をどれくらい理解出来ているか。
  - 2.それぞれの政策オプションの利点、不利な点を説明しているか。
  - 3.推奨案を実行する上で懸念される困難についての理解。
  - 4.国際的な事例から日本の医療政策が学び得ることへの言及。
- 一番高い評価を得たのは、麻生 豪、高橋 詩野美、野口 昌克、バラト・シン・ネギのチームでした。

---

政策メモの正式プレゼンテーション:2015年10月28日

プログラム最終日に最高点を獲得したグループには、厚生労働省、社会・援護局、福祉基盤課福祉人材確保対策室長である武内和久氏に彼らの政策メモを提案する機会が与えられました。麻生 豪はグループを代表し、武内氏にプレゼンテーションを行い、武内氏は政策メモに対するフィードバックを述べ、彼が実際に部下からの政策メモを聞く際に重要視するポイントを説明しました。そのポイントとは、強固なストーリーライン(なぜその問題が今重要であるのか)、費用(誰がどのように支払うのか)、そしてステークホルダー(潜在的な支援者は誰なのか、説得する必要があるのは誰か、またどのように説得するのか)、でした。

## 写真



1日目:パイレーツオブ東京湾によるアクティビティ(マイケル・ホームズ氏撮影)、アンスミス(日本医療政策機構)および谷所由紀子(日本医療政策機構)による講義



2日目: 小野崎耕平(日本医療政策機構理事・事務局長)および宮田俊男(日本医療政策機構エグゼクティブディレクター)による講義



3日目: 山崎蕨加氏(ハーバードビジネススクール・日本リサーチセンターアシスタントディレクター)によるデザインシンキングワークショップ



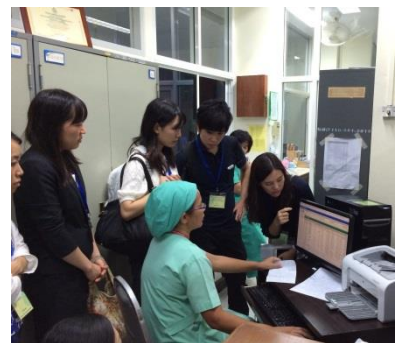
4日目: バンコク到着



写真



5日目: タイ国民医療保障局 (NHSO)、NHSOデータセンター、NHSOコールセンターの見学



6日目: マカラク地域病院と地域のヘルスセンターへの訪問

写真



7日目: グループワークおよびホームステイスタッフによる料理



8日目: バンコクから東京へ



9日目: グループワークおよび原聖吾(日本医療政策機構フェロー)からのフィードバック

# 写真



10日目: 発表会



2015年10月28日: 政策メモの正式プレゼンテーション

## スタッフ

---

- プログラム・コーディネーター  
アン スミス
- プログラム・オフィサー  
谷所 由紀子
- プログラム・オフィサー  
小山田 万里子
- プログラム・アシスタント  
加畑 秀樹

## お問い合わせ

---

特定非営利活動法人 日本医療政策機構  
2015グローバルヘルスサマープログラム  
東京都千代田区永田町1-11-28  
Tel. 03-5511-8521 Fax. 03-5511-8523  
E-mail: [jimukyoku@hgpi.org](mailto:jimukyoku@hgpi.org)  
Web: <http://www.hgpi.org/>

©特定非営利活動法人 日本医療政策機構



〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-28 7階  
TEL 03-5511-8521 FAX 03-5511-8523  
URL: [www.hgpi.org](http://www.hgpi.org)  
E-mail: [info@hgpi.org](mailto:info@hgpi.org)